

チャタヌーガ市 交流年表

1990

チャタヌーガ市のC S A S校と姉妹校を締結し、両市の高校生が交流をスタート。



1999

中学生海外派遣交流事業を開始。初回は市内の中学生8人が派遣されました。



2002

「9.11」の影響で1年中断していた交流事業を再開。市民訪問団の派遣も実施。



2007

チャタヌーガ市から外国語指導助手(A L T)の招へい。



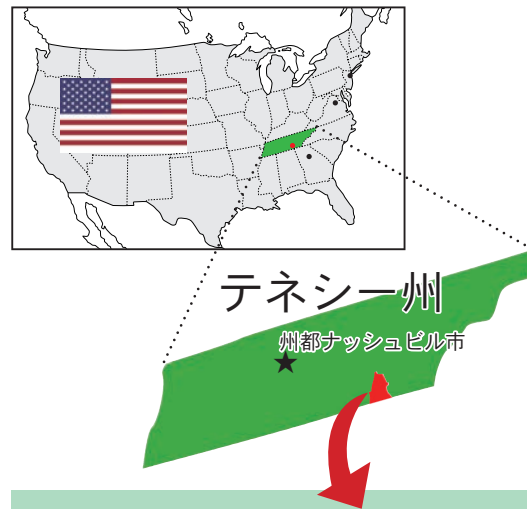
2016年9月

姉妹都市締結を望むチャタヌーガ市長の親書を携え、友好訪問団が来遠しました。



2017年9月15日

締結式が市役所本庁舎で行われ、姉妹都市としてのさらなる交流が始まりました！



テネシー州
州都ナッシュビル市



チャタヌーガ市

テネシー州東部に位置する。温暖な気候で、テネシー川の豊かな流れと自然に囲まれた都市。

人口：17万人 面積：370.8平方キロ

姉妹都市：ハム市(ドイツ)、無錫市(中国)、ギヴァタイム市(イスラエル)、ニジニ・タギル市(ロシア)、江陵市(韓国)、ヴォルフスブルク市(ドイツ)、マンフレドニア市(イタリア)

27年間の両市の交流人数

585人

特集 Sister City Chattanooga 姉妹都市チャタヌーガ

9月15日に米国チャタヌーガ市との姉妹都市締結式が行われました。両市の高校同士が姉妹校となったことが交流のきっかけ。両市のこれまでの交流を振り返り、姉妹都市としてのこれからの交流についてお知らせします。

取材協力：(一財)遠野市教育文化振興財団



1_チャタヌーガ市友好訪問団のために開かれた歓迎の宴。多くの関係者が集い、姉妹都市締結を祝いました 2_9月15日に行われた締結式で、固い握手を交わすアンディー・パーク市長と本田市長 3_遠野中学校を訪問し、生徒と交流 4_遠野緑峰高校のポップ和紙の説明を受ける訪問団 5_遠野まつりにも参加。市民と交流を深めました



Friendship

— 友情 —

姉妹校から 姉妹都市へ

本市とチャタヌーガ市の交流は、遠野高校と遠野緑峰高校がチャタヌーガ市のC S A S校(※)と姉妹校となったのがきっかけ。急速に進展する国際化に伴い国際感覚あふれる人材を育成しようとして、平成3年に海外派遣交流事業が始まりました。交流事業では、派遣生が一般家庭にホームステイ。日常生活を体験しながら現地の歴史や文化を学び、自分たちの国や地域について紹介するなど、交流活動を行ってきました。その後、市は平成11年には中学生の派遣を開始し、14年には市民レベルでの交流も実施。また、チャタヌーガ市から外国語指導助手(A L T)を招くなど、20年以上に渡り友情を深めてきました。

昨年9月、チャタヌーガ市長の姉妹都市締結を望む親書を携えた友好訪問団が来遠。本年9月15日には、チャタヌーガ市のアンディー・パーク市長が遠野を訪れ、締結書に署名しました。両市長は握手を交わし「姉妹」としての交流の発展を約束しました。

Interview

遠野と幅広い分野で交流したい

遠野市とチャタヌーガ市の交流がはじまって27年。以前から両市の関係がより親密なものになるよう、姉妹都市締結を望んでいました。姉妹都市として関係が続くことをうれしく思います。来遠した際、市内の企業や学校を視察しましたが、どこも素晴らしい取り組

みをしていて感動しました。姉妹都市締結を機に、交換留学だけでなく文化・教育・経済と幅広い分野での交流に期待しています。遠野市民の皆さんも、ぜひチャタヌーガに来てください。私たちはもう姉妹です。気軽に行き来し合い、交流をもっと深めていきましょう。



チャタヌーガ市
アンディー・パーク市長

※「Chattanooga School for the Arts and Sciences」の略。チャタヌーガにある学校

経済

3

全米トップの環境基準を設けながら、世界的に有名な企業の工場が数多く進出しています。



6



5

チャタヌーガ市は産業育成に積極的です。テネシー州の名産の一つがテネシーウイスキー。近年まで酒造を禁じていたチャタヌーガ市は、2015年からウイスキー製造に力を入れ始めました。また、日系企業やドイツの自動車メーカーがチャタヌーガ市に進出しており、誘致企業が経済をけん引しています。

5_チャタヌーガウイスキー
6_コマツ社のチャタヌーガ工場



1

鉄鉱石の産地に近いチャタヌーガ市は、19世紀後半に鉄道駅が開設されてから米国屈指の鉄鋼業のまちとして発展。しかし、1960年代には大気汚染が進み、全米最悪のまちというレッテルを貼られてしまいました。汚名を挽回すべく、90年代に、「まちづくりにスペシャリスト」「徹底的な市民参加」「産業誘致と企業誘致」をスローガンに、まちの再生に着手。現在は「全米で最も住みたいまち」として有名になりました。

歴史

1

鉄鋼業のまちとして繁栄。一度は環境が悪化するも、市民の力で再生した歴史があります。

1_鉄鋼業のまちを彷彿させる蒸気機関車のオブジェ「チャタヌーガチューチュー」がシンボルになっています。現在はホテルとして利用しています。

チャタヌーガ市について、私が紹介します！



(一財)遠野市教育文化振興財団
国際化推進支援員
アレックス・ヒューイさん

Selling Point

— 魅力 —

「全米で住みたいまちNo.1」のチャタヌーガ市。その魅力を紹介します。

特集
Sister City
Chattanooga
姉妹都市チャタヌーガ

チャタヌーガの魅力

歴史・観光・経済と魅力あふれるチャタヌーガ市は、自然が多く美しい都市としても有名。実は、深刻な環境悪化により「全米最悪のまち」と呼ばれた過去がありました。それから、官民一体となって再開発に着手。都市開発と自然環境の調和した都市へと生まれ変わりました。現在では全米で住みたいまちNo.1に選ばれています。

チャタヌーガ市の魅力は、企業・行政・市民が一体となって作り上げたもの。チャタヌーガ市には、「地域再生都市」として学ぶべきところがたくさんあります。ぜひチャタヌーガを訪れて、その魅力を体験してみたいかがでしょうか。



7

7_市民がお金を出し合って補修したウォルナット・ストリート橋 8_市民と共にまちづくりを行ってきたチャタヌーガ市役所 9_クラブツリーファームでは、無農薬の野菜を種まきから収穫まで手作業で栽培しています



9



8

行政への市民参加が活発なチャタヌーガ市。まちづくりのアイデアを市民から募り、政策化することで豊かな市民生活を築いています。世界一長い歩行者用の橋ウォルナット・ストリート橋や、気軽に農業を体験できる農場クラブツリーファームも市民の声から生まれたものです。

行政

4

市民にも参加を呼びかけ、誰もがまちづくりに参加できる開かれた行政が特徴です。

観光

2

歴史的建造物や恵まれた自然を生かし、魅力あるまちづくりに取り組んでいます。



2



4



3

2_テネシー川に浮かぶデルタ・クイーン号 3_人気観光地の1つ、ロックシティ・ガーデン 4_ポイント・パークからは市内を一望できます

チャタヌーガ市は観光業にも力を入れています。アメリカ最後の航海可能な蒸気船「デルタ・クイーン号」は観光客に大人気。大小さまざまな岩石や植物が見られる「ロックシティ・ガーデン」、南北戦争の名残を今に伝える「ポイント・パーク」など、観光名所がたくさんあります。アトランタなど都市部からの交通の便もよく、観光客が増加しています。



文化を考えるいい機会に

平成28年度派遣生・遠野高3年
菊池 あかりさん

今年の1月に派遣生として参加しました。折り紙や書道で日本の文化を紹介すると、とても喜ばれました。10日間と短い日程でしたが、海外と日本の文化の違いを実感。自国の文化を考える機会になりました。今度はホスト・ファミリーとして、チャタヌーガの人たちを遠野に招きたいです。



↑チャタヌーガでのあかりさん



↑遠野でのストラットさん

派遣生として初めて遠野に来たときから、遠野市民の温かさに感動しました。そんな遠野市と姉妹都市になれたこと、そして友好訪問団を歓迎してくれたことを大変嬉しく思います。姉妹都市締結のために尽力してくれたみなさんに感謝します。この交流が今後も末永く続くことを願っています。

尽力してくれたみなさんに感謝

チャタヌーガ派遣生
チャタヌーガ遠野友好委員会会長
ストラット・パロットさん



↑受入時の様子

チャタヌーガの学生をホスト・ファミリーとして4回受け入れました。当時受け入れた人とは、今も交流が続いています。よく「第2の家族」といいますが、順位なんてつけられない本当の家族だと思っています。チャタヌーガ市とは、年齢問わず行き来するような交流が今後も続いてほしいです。

本当の家族だと思っています

ホスト・ファミリー
菊池 勇介さん
33歳＝綾織町＝



この体験を次の世代へ

平成18年度 高校生派遣生
浅沼 恭平さん
29歳＝松崎町出身＝



友人に誘われて参加。実際に行ってみると、チャタヌーガ滞在中はすべて自分で決断し対応しなければならないので、驚きました。でも、この経験のおかげで決断力や柔軟性が身に付きました。チャタヌーガで学んだことはどれも得難い物ばかり。この体験を次の世代につなげていきたいです。

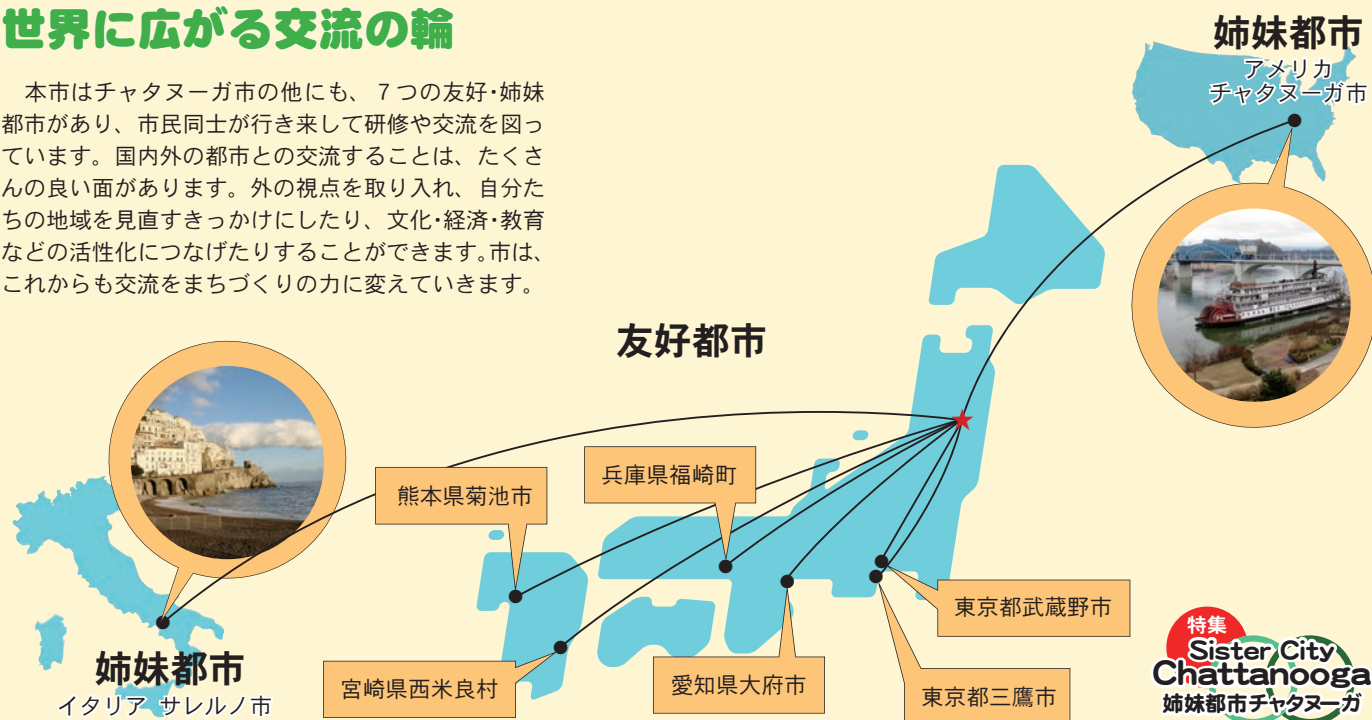


↑チャタヌーガでの浅沼さん

世界に広がる交流の輪

本市はチャタヌーガ市の他にも、7つの友好・姉妹都市があり、市民同士が行き来して研修や交流を図っています。国内外の都市との交流することは、たくさんの良い面があります。外の視点を取り入れ、自分たちの地域を見直すきっかけにしたり、文化・経済・教育などの活性化につなげたりすることができます。市は、これからも交流をまちづくりの力に変えていきます。

友好都市



Relationship

— 関係 —

27年という歳月をかけて育んできた両市の交流。そこには、多くの人が関わってきました。実際に交流した参加者の声を聞いてみました。

海外派遣交流事業に関わった人たちは、かけがえのない体験をしています。現代社会ではインターネットを通じて、世界中の人と交流したり、文化を学んだりすることが容易になっています。しかし、現地に赴き異なる文化に触れることは、画面越しに接するよりも多くのことを学ぶことができます。なにより、異国の地での体験は自分のまぢを見つめ直し、ふるさとの良さを実感するきっかけにつながるのです。

中高生の海外派遣事業では、これまで両市から延べ600人の派遣生が海を渡り、ホームステイなどを通じて現地の人と交流してきました。派遣生とホスト・ファミリーは、国や人種、言語の壁を越え、心と心で交流しています。その交流は帰国した後も切れることがなく、友情から絆へと発展しています。

かけがえのない体験

Interview



チャタヌーガ姉妹都市協会会長
カレン・クレイプールさん



(一財)遠野市教育文化振興財団理事長
及川 増徳さん
68歳=上郷町=



平成29年度 中学生派遣生
阿部 光沙季さん
=遠野東中3年=

遠野の文化に感動しました

遠野に友好訪問団として訪れたことを大変誇りに思います。調印式はもちろん、観光施設や学校、遠野まつりを視察して遠野の文化の素晴らしさに感動しました。とても貴重な体験でした。初めて遠野に来ましたが、今回のみならず、また訪れたいです。これから姉妹都市として交流を深めていきましょう。

さまざまな分野で交流を！

チャタヌーガ市と姉妹都市締結を行えたのは、遠野市教育文化振興財団としても大変意義深いこと。国際感覚あふれる人づくり、まちづくりのために中学生・高校生海外派遣交流事業を行ってきましたが、これからは姉妹都市として、スポーツや観光などさまざまな分野で交流が広がることを期待しています。

遠野のことを発信していきます

派遣生としてチャタヌーガに行ってきた先輩たちの話を聞いて、参加したいと思いました。姉妹都市となってから初めての派遣生なので緊張もありますが、遠野の代表という自覚を持って頑張ってきます。遠野のことをもっと知ってもらえるよう、コミュニケーションを積極的に図りたいです。



— 未来 —

チャタヌーガ市と姉妹都市になったことで、さまざまな分野での交流が期待されます。両市の発展に期待することを、キーパーソンにインタビュー。姉妹都市の可能性を探ります！

Interview

両市の交流を 発展させていきたい

1990年の一番最初のホームステイを受け入れてから、遠野市との交流の橋渡しをさせてもらいました。今回の姉妹都市締結は、私の長年の夢。たくさんの人の協力を得て実現しました。遠野市は私のホームです。そして、遠野市民は私のファミリーです。ここまでの27年間、多くの学生や先生を受け入れてきて

ました。そこで出会った1人ひとりが今も大切な存在です。

私たちは以前から両市の交流を交換留学だけでなく、経済や文化交流にも発展させていきたいと願っていました。きっと姉妹都市をきっかけに、両市の交流がますます活発になり発展していくと思います。これから歩む将来がとても楽しみです。



遠野名誉親善大使
ルイーザ・メシッチさん
チャタヌーガ市在住。90年にCSAS校の教師として遠野市の高校生派遣に携わる。96年からは交流のコーディネートを担っている

未来へつなげる
高校生の交換留学から始まった交流は、「学校と学校」から「まちとまち」の交流へと広がりました。チャタヌーガ市が姉妹都市となったことで、今後さまざまな分野での交流が期待されています。ワサビやポップなどの特産品、遠野物語に代表される文化的遺産など、本市にはチャタヌーガをはじめ、世界に発信できる多くの魅力があります。また、チャタヌーガ市の経済と環境を両立させたまちづくりからは、日本の原風景と言われる遠野の景観を次世代に残していくためのヒントを見つけることができるかもしれません。
多くの外国人が日本を訪れている今、異文化から多くのことを学ぶチャンスに恵まれています。まず、遠くまで近い、チャタヌーガ市と交流を深めてみてはどうでしょうか？ 姉妹都市というチャタヌーガ市との強い絆は、私たちにとって貴重な財産になるはずです。この交流を通じて、現在海外で活躍している元派遣生も出てきています。この絆を後世へ引き継ぎ、両市の明るい未来へとつなげていきましょう。

アレックスのチャタヌーガ便り 最終回

チャタヌーガ市姉妹都市締結記念事業

アメリカンフェスティバル『アメフェス』

開催日

11月23日(木・祝)

時間：昼の部 11時～15時
夜の部 17時～20時

各部先着100名様にプレゼントがあります！

会場：あえりあ遠野 交流ホール

両市の姉妹都市締結を記念して、チャタヌーガ市や米国南部地域にちなんだ音楽や食べものの紹介・販売を行います！ チャタヌーガ市を紹介する展示や楽しいステージイベントも予定しています。ぜひお越しください。

